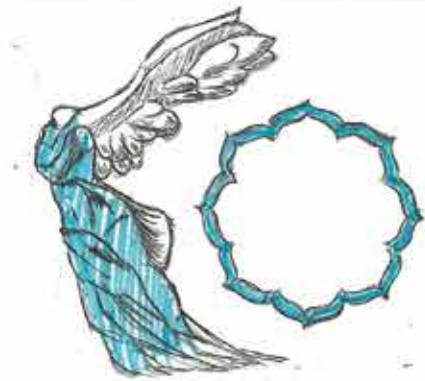


100



ten

10

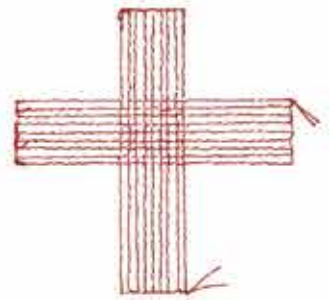


女子美と学生を応援
保護者と教職員の会

一ケの会

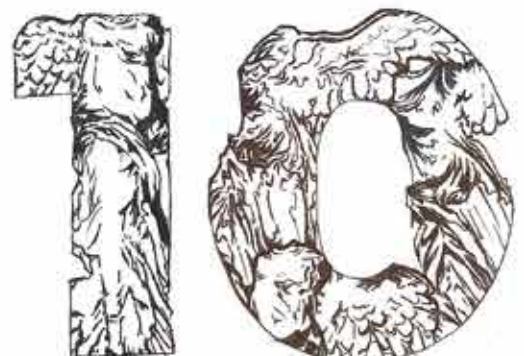
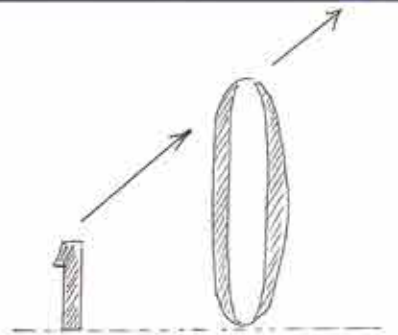
活動報告
会長挨拶・一ヶカフェ・鎌倉散策ツアー
お知らせ
今後の行事のご案内・地区懇談会のご案内
PICK UP
各専攻・領域・コース後期授業の様子
学生生活
女子美祭・五美大展・JOSHIBISION

ENTH



10

拾



会長挨拶

大学と家庭を結ぶ会として

今の日本では「平成最後の〇〇」と枕詞のように使われていますが、女子美においても平成最後の新入生、新学年を迎え、節目となる年がスタートしました。ニケの会も本年設立10年の節目を迎えます。伝統ある女子美において10年と聞き驚かれる方もいらっしゃると思いますが、大学や学生の皆さんを応援する気持ちは年月以上に深く、熱い想いは会の伝統として繋がっております。本年度は設立10周年記念として、記念事業などもあり例年以上に活況な年となります。ご父母の方々にとってもまたとない機会となりますので、是非、積極的にニケの会活動にご参加ください。お待ちしております。

ニケの会 会長 小早川 有子 (博士前期課程美術専攻立体芸術保護者)

女子美と学生を応援する保護者と教職員の会 ニケの会とは

女子美術大学ニケの会とは「学生の父母、保護者を中心となり、大学と協力して学生生活の向上を図り、大学の発展に寄与し、会員相互の親睦と教養を深めること」を目的としています。その目的を達成するために、次のような事業等を行っています。

- 学生への助成
- 会員交流イベント
- 年2回会報誌発行
- 特別聴講
- 懇談会開催
- ホームページでの情報提供

ニケの会 10周年記念グッズ

この度、設立10周年を記念してニケの会グッズをつくりました。今後は総会や女子美祭などで販売予定です！



ドリップコーヒー
1袋 100円



チケットホルダー
1枚 300円

活動報告

ニケカフェ

2018年10月27日(土)・28日(日)



毎年、女子美祭期間に、「ニケカフェ」が相模原・杉並の両キャンパスにオープンします。ニケカフェ限定発売の女子美どら焼き(写真左下)、女子美サブレ(写真右下)は大変好評でした！今年度の女子美祭も是非ニケカフェにお立寄りください。

完
売

稲木吉一先生と行く 鎌倉散策ツアー

2018年11月17日(日)

鎌倉散策ツアーを開催いたしました。

稲木吉一先生(芸術文化専攻教授)の引率で東慶寺、長寿寺、円応寺、覚園寺を拝観しました。



参加者の声

- ・雨の予報も払いのけて、晴れに恵まれ、一日たのしく過ごせました。また違った季節に訪れてみたいです。
- ・楽しみにしておりましたが期待以上の内容で大満足でした。新入生で大学とのつながりがなく不安でしたが、学年を超えてお話ができて大変有意義な一日を過ごすことができました。

満
員
御
礼

お知らせ

2019年度 二ケの会 活動予定

※詳細は二ケの会のホームページをご確認ください。

6月1日(土)	総会・教員との懇談会・交流会
7月6日(土)	東海地区懇談会
7月28日(日)	甲信越地区懇談会
9月14日(土)	中国・四国地区懇談会
10月26日(土)・27日(日)	女子美祭二ケカフェ

設立10周年

記念講演・祝賀会

11月 COMING SOON

2019年度 総会・教員との懇談会・交流会

申込み締切 5/13(日)17時

保護者同士の親睦も深めることができ、とくに新入生の保護者の皆様にとっては、美術大学での学生生活がよくわかり不安解消の一助につながると思いますので、ぜひご参加ください。

総会

女子美術大学二ケの会の活動についてご報告し、今後の計画等をご審議いただきます。

6月1日(土)

13:00~14:00(開場 12:30)

杉並キャンパス

110周年記念ホール(1号館1階)

教員との懇談会

大学の近況や学生生活や就職の支援体制等の説明のほか、各学科の先生にも直接お話を伺えます。

6月1日(土)

14:00~16:30

杉並キャンパス

110周年記念ホール(1号館1階)

交流会

保護者同士の親睦を深めるため、カフェテリアに場所を移し立食パーティー形式(会費二千元)で行います。

6月1日(土)

17:00~18:30

杉並キャンパス

カフェテリア(2号館地下)

お申し込み専用フォーム

<https://goo.gl/forms/outUkOq6S8ocZT5F3>



キャンセル専用フォーム

<https://goo.gl/forms/yXwrByBBom64zCO13>



2019年度 地区懇談会のご案内

学生生活・就職の支援体制等の説明のほか、開催地域で働く先輩(卒業生)から、学生時代・就職活動・仕事の話など直接お話しいただく時間があります。

東海地区

ウインクあいち

7月6日(土)

14:00~16:30

申込み締切 6/21(金)17時

WEB申込みフォーム

<https://goo.gl/forms/UbqIYUHmaaBRACNH2>



甲信越地区

JA長野県ビル

7月28日(日)

14:00~16:30

申込み締切 7/12(金)17時

WEB申込みフォーム

<https://goo.gl/forms/c0g8VWzmbWyrJFi2>



中国・四国地区

ひろしま美術館

9月14日(土)

14:00~16:30

申込み締切 8/30(金)17時

WEB申込みフォーム

<https://goo.gl/forms/6JDEi4CFzyFHTz1B2>



キャンセル専用フォーム

<https://goo.gl/forms/k8KmMreLbVtbwSei1>



お問い合わせ 二ケの会事務局(校友室)

☎ 042-778-6111 FAX 042-778-6637

✉ nikenokai@venus.joshibi.jp

美術学科 洋画専攻
mixed-color.com



12月に版画コースでの授業成果展を学内ギャラリースペース1900にて開催しました。今回の展示は版画作品以外に支持体となる「紙」に焦点を当てており、2年生は紙と印刷の関係を「ぼち袋」の制作を通して学び、3年生は「本」の構造や機能を学ぶことで版表現と紙への理解を深めることに繋がりました。



美術学科 芸術文化
www.joshibi.net/cac



2年生は春休み中の1か月間、「海外芸術研修II B」の授業としてイギリスでの研修に参加します。英語はもちろん、イギリスの芸術・文化に関する学習や、研修先のラフバラ大学で現地の学生と共同開催する展示会の準備に取り組み、相模原キャンパスの学生から作品を募集して、各自がキュレーションに挑戦しました。

美術学科 日本画専攻
www.joshibi.net/nihonga



日本画専攻1年生は、古来から伝わる技法を用いて『絹本制作』を行いました。絹織物の透過性を利用して、画面の裏から彩色や箔を貼り淡い色彩の効果を利用して描く“裏彩色”や“裏箔”といった技法を用いて思い思いの表現を試みました。和紙に描くことが多い学生にとって、絹本制作の難しさや唯一の美しさを体験出来たことが今後の制作に役立つことでしょう。

美術学科 美術教育専攻
www.joshibi.net/kyoiku



女子美祭では学年ごとに自分たちでテーマを設定し、これまで制作してきた作品の展示を行いました。2年生は相模原市のユニコムプラザまちづくりフェスタにて、子どもたちを対象にプラバンとレジンを使ったキーホルダーのワークショップを行いました。当日は大盛況で、来場者が選ぶ「GOOD JOB賞」第1位にも選ばれました!

デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
kankyo.joshibi.net



東京ビックサイトにて開催された「WOODコレクション2019」に出展した、もりかみ協議会様のPRブースのデザイン・制作を行いました。また、bono相模大野にて、相模原市南区をイメージしたウィンドウディスプレイの企画・制作を行いました。テーマは「南区の風」です。その他、様々な学外プロジェクトを実施しました。

美術学科 立体アート専攻
www.s-art-joshibi.info



後期は4年生の卒業制作が佳境に入りました。組み立てたり、細かな部分を修正するといったような、完成度の高い作品にするための制作を全力で行なっています。今までの集大成になるので、かなり大きなものに挑戦する学生が多く、とても完成が楽しみです。これらの作品は五美大展(新国立美術館)と学内での卒業制作展で観ることが出来ます。

デザイン・工芸学科 工芸専攻
joshibi-crafts.net



写真は陶コース3年次、大物陶造形の授業風景です。60kgの粘土を全て使用し、全身を使って陶造形に挑みます。大きい作品の場合、粘土を思い通りにコントロールすることは大変難しいです。その難しい体験を通して、素材との関わりをより深めていきます。この課題は卒業制作の大作へつながる体験となります。

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
www.joshibi.net/dc/visual



卒業生でありアートディレクターの吉田ユニさんをゲストに迎え、澁谷克彦先生、中嶋貴久先生による集中講義が開催されました。VD専攻以外の学生も参加し、大いに盛り上がりました。先生方の学生時代や現在のお仕事のお話を熱心に聞く学生の姿が印象的でした。貴重な機会に学生たちも刺激を受けたようです。

デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
joshibi-product.com



11月の2日間、東京ミッドタウン・デザインハブにて産学連携授業をメインとした「女子美術大学×企業 共創展」を開催し、初日には大手半導体メーカーであるルネサスエレクトロニクス株式会社との連携授業の成果を担当学生たちが発表。学生にとっては制作した作品を多くの方にご覧いただく貴重な経験となりました。

杉並キャンパス

アート・デザイン表現学科 **メディア表現領域**
www.joshibi.net/media



3年生の授業科目「プロジェクト&コラボレーション演習」で、パナソニック株式会社と実施した「超大型画面制作プロジェクト」で制作した映像が三井住友銀行汐留出張所にて、5月末日まで上映されています。このプロジェクトでは、公共空間におけるメディア表現の可能性を探求し、日本の魅力を伝えるコンテンツづくりをテーマに大型の映像を制作しました。今回は7名の学生の動画作品が選ばれました。

アート・デザイン表現学科 **ヒーリング表現領域**
www.joshibi-healing.net



2年生の「壁画技法演習」では、杉並キャンパス2号館地下1階カフェテリア内(写真左)、3年生の「壁画制作演習」では、2号館地下1階図書館前壁面(写真右)にそれぞれ壁画を描きました。カフェテリアや図書館を利用する多くの方に、楽しんで利用してもらえるよう各学年とも工夫をこらしました。ぜひ実物をご覧ください。

アート・デザイン表現学科 **アートプロデュース表現領域**
www.j-ad-ap.com



去る10月30日、毎年恒例の「秋のミュージアムツアー」を行い、「葦崎大村美術館」と「山梨県立美術館」を訪問しました。葦崎大村美術館では、本学名誉理事長の大村智先生が長年に渡って収集された貴重なコレクションが収蔵されており、今回は女子美OGである堀文字先生の展覧会を拝見しました。美術館近隣の「幸福の小径」に新設された彫刻作品群へも足を伸ばし、有意義な時間を過ごしました。



アート・デザイン表現学科 **ファッションテキスタイル表現領域**
joshibi-ft.com



1年次の造形基礎演習は、製図による作品制作を行いますが、初回は重力によって変化する布の面白さ、創作の瞬発力を体験するため、ドレーピングに挑戦しました。学生たちはトルソーに布を乗せてドレープやフォルムを作り、距離を置いてトルソーを眺め、バランスを調整し、イメージした形を完成させました。

短大 **デザインコース**
joshibi-tandai.net



短大デザインコースグラフィックでは、1年後期と2年前期に活版印刷工房でタイポグラフィを学ぶ授業があります。近年注目されている活版印刷ですが、実際に授業で学ぶことができる貴重な機会として学生たちも楽しみにしています。一文字づつ活字を拾い、組版、本刷り、解版まで、一連の工程を学びながら作品を制作します。時間をかけて文字と向き合う経験は、今後デザインの中で活かされていきます。

短大 **美術コース**
joshibi-tandai.net



1年生の授業「造形思考」では1人のモデルによる異なるポーズを画面上で構成し、それを基に紙によるコラージュで表現します。更にそこから絵具による平面絵画へと展開させていき、3次元から2次元に変換する作業の中で絵の具という素材の表現による可能性を探る授業となりました。

学生生活

女子美祭 2018 10月26日(金)~28日(日)

相模原: キッチンカー長蛇



相模原: 二ぎみわんちゃん



杉並: 正門装飾



杉並: 中庭パフォーマンス



杉並 女子美祭

燃え尽きた女子美祭。昨年の2月から女子美祭に向けての準備を行い、あっという間の濃い1年間を過ごさせて頂きました。

女子美祭実行委員長として女子美祭委員全体をまとめるというのは大きなプレッシャーではありましたが、様々な領域、学年の方々との繋がりが生まれ、最高に楽しかったです。

私個人としては中庭でパフォーマンスをするという無謀な挑戦を大勢の方々に見て頂けたことが嬉しかったです。

さて、今年度の女子美祭。今年はさらに盛り上がるのが予想されます。お見逃しなく!

実行委員会 委員長 水谷初音 (アートプロデュース表現領域)

相模原 女子美祭

2018年度女子美祭(相模原キャンパス)は株式会社サンリオとのコラボ、ライブペイント、バレード、東工大コラボワークショップなど、新しい企画に沢山挑戦しました。

中でも学生の要望から実現したサンリオコラボはレッツエンジョイ東京の学園祭グランプリで評価され「小田急電鉄賞」をいただきました。

新しい企画は沢山の人の協力でやっと実現します。

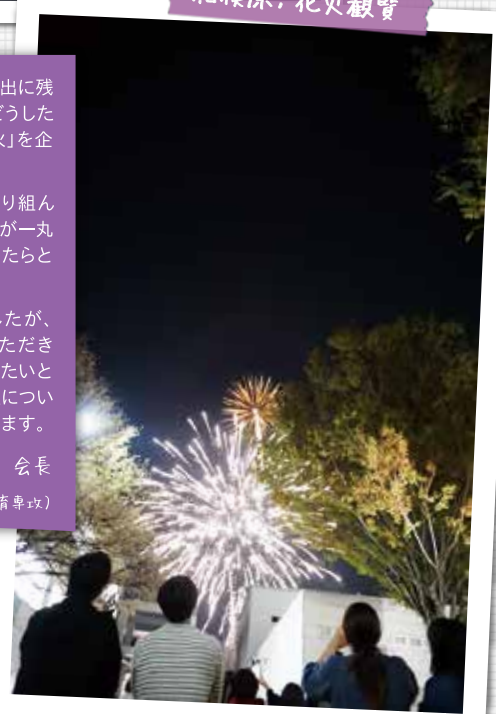
私は学生のやる気、学校の厚いサポートにふれ、女子美祭の可能性を深く感じました。

実行委員会 委員長 水上 知 (サイジュアルデザイン専攻)

相模原: 特撮



相模原: 花火観覧



学友会として、学生たちの思い出に残るような女子美祭にするにはどうしたら良いかと考え、「打ち上げ花火」を企画しました。

女子美祭実行委員が熱心に取り組んでいる姿を見て、更に女子美生が一丸となって女子美祭を作って行けたらと感じました。

打ち上げ花火は初の試みでしたが、思っていた以上に好評をいただきましたので、今後も続けていきたいと考えていますが、資金面の課題については引き続き検討したいと思います。

学友会 会長

艾明菜 (美術教育専攻)

杉並: 空間展示



会場風景

東京五美術大学連合
卒業・修了制作展

2019年2月21日(木)~3月3日(日)

東京・六本木にある国立新美術館で東京五美術大学(本学、武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部)の美術系学科による卒業・修了制作展が開催されました。



「DOGGOS」

私の卒業制作「DOGGOS」は、コンセプトのない作品です。

もとより私はコンセプトや作品の意味を考えることが苦手でした。

そのため、それを話さなければいけない講評の時間が苦手でした。

ですが先生方は別にコンセプトを強制しているわけではなく、講評という作品について話し合い、それに意見するというタスクを進めるにあたってコンセプトがあると便利だというだけで、コンセプトのない作品も作品足り得るということに気づきました。

ただかっこいいと思うものをそのまま作っていても良いのです。

鈴木ふみ乃(立体アート専攻)

「NYANKO」

この卒業制作で初めて自分の好きなものを作りました。

今までは課題だからという気持ちで作品を作っていましたが、せっかくの卒業制作で思い入れのない作品を作るのはもったいないなあと思い、大好きな猫を作ることにしました。

猫ちゃんのやわらかいお腹やぶにぶにな肉球、ふくふくのお口など、私の中の猫ちゃんの大好きポイントを詰め込んだ作品になりました。

みんなにかわいいと言われて嬉し気持ちでいっぱいです。

阿部みゆき(立体アート専攻)



←Artist Comment

学生生活最後の作品ということで自分の好きな「和」と「樹脂」の魅力を作品にたくさん詰めこんだのですが、色々な方々に好評を頂く事ができ、自分のこの先の道標となりました。

これから大変な事や乗り越えなければならない事が多々あると思いますが、今までの学生生活での経験や今回の修了制作で得た思いを大切に、今後の制作活動に活かしていきたいと思っています。

最後に、ご協力いただいた先生方をはじめ、友人、家族等本当にありがとうございました！



假屋崎省吾賞
「季葉灯」
福岡 蘭さん(大学院:デザイン専攻)



信藤三雄賞
「狂気の理髪狂」
北野 なつ美さん(短大:デザインコース)



山口裕子賞
「気の合う友達」
竹中 遥香さん(洋画専攻)



小松美羽賞
「WASH STANDerで支度して」
増井 萌さん(立体アート専攻)



本江邦夫賞
「風邪っぴきのあなたへ かぜぼうしとねぎまき」
玉田 真理さん(大学院:美術専攻)



岩倉暢子賞
「shelter」
村野 万奈さん(洋画専攻)



菊地敦己賞
「気持ちのリズム」
タク エツさん(大学院:デザイン専攻)

JOSHIBISION 2018 —アタシの明日—

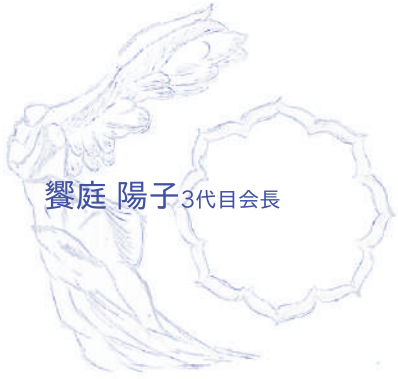
2019年3月1日(金)~3月6日(水)

女子美術大学 大学院・大学・短期大学部 学生選抜作品展が東京都美術館で開催されました。

3月1日(金)には7名の審査員が招待され、レセプション内で各審査員賞の表彰式が行われました。



横山 勝樹^{学長}



饗庭 陽子^{3代目会長}



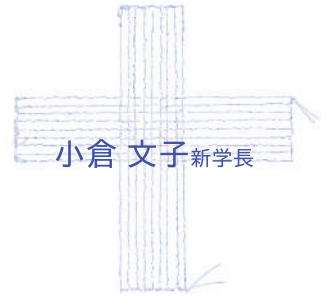
佐野 ぬい^{元学長}



鈴木 靖則^{初代会長}



小早川 有子^{4代目会長}



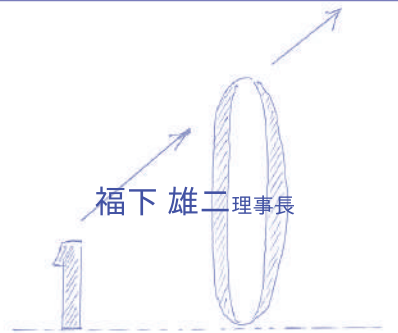
小倉 文子^{新学長}



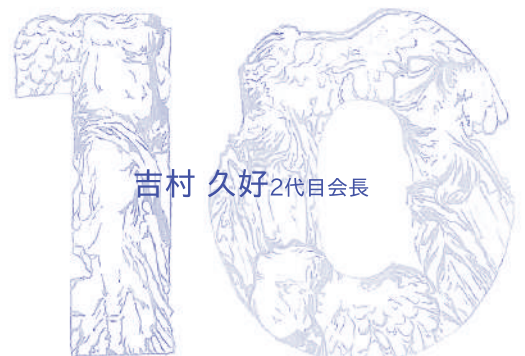
佐藤 善一^{元常務理事}



大村 智^{名誉理事長}



福下 雄二^{理事長}



吉村 久好^{2代目会長}

女子美術大学二ヶの会事務局（校友室）

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900
TEL 042-778-6111
FAX 042-778-6637
Eメール nikenokai@venus.joshi-bi.jp
ホームページ www.pcs.co.jp/nike/

表紙のことば

女子美術大学二ヶの会は、2019年10月25日をもって満10歳を迎えます。これまで深くお力添えくださいました10名の方々に、10歳の「10」の文字を書いていただきました。それぞれの方の思い思いの「10」ですが、思いが伝わり、その方らしさが見えてきます。